

31年1月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成31年 1月1日～ 31年1月10日

2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
1月分の回答企業数は3社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		31/1月	2月	3月
入荷動向	国産材	16.7	16.7	0.0
	外材	50.0	0.0	0.0
在庫動向	国産材	0.0	0.0	0.0
	外材	50.0	0.0	0.0

・国産材ラミナの入荷動向は1月、2月の増加から、3月は横ばいに。外材は1月の増加から2月、3月は横ばいに。

・国産材ラミナ在庫動向は3カ月連続横ばい推移。外材は1月の増加から2月、3月は横ばいに。

(2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	31/1月	2月	3月
国産材	0.0	0.0	25.0
欧州材	0.0	0.0	0.0
その他	0.0	0.0	0.0

・国産材ラミナの入荷動向は強含み。
・欧州材は為替の影響で弱含み。

モニターからのコメント

(ラミナ荷動き)

・国産材ヒノキラミナの入荷動向は、12月集成材の生産好調によりラミナ在庫が大幅に減少、1月は購入ラミナを増やしている。2月も売材ラミナ購入を増やす。一方、製品販売の市況は急速に悪化、3月以降の購入量については様子見。米ヒバは、11月、12月の集成材生産が好調であったためラミナ在庫は急速に減少。1月は減った分入荷を増やした。一方製品販売状況は急速に悪化しており、2月以降の入荷は増やさず状況を見る。
・国産材ヒノキラミナの在庫動向は、12月は販売好調かつ生産好調に推移したことから、ラミナ在庫は若干減少し、これまで在庫過多であったがようやく適正在庫水準に戻った。1月も販売順調、ラミナ在庫が減少する分は販材ラミナ購入量を増やして補う。米ヒバ集成材は、12月の生産と販売は順調に推移したことから、在庫はかなり少なくなった。1月はその分少し入荷を増やすように調整している。こちらも今後適正な在庫水準で推移させて行きたい。

(ラミナ価格動向)

・ヒノキラミナの価格動向は、全体的な製品販売の市況が年明け以降鈍化していることもあり、当社にヒノキラミナを供給してくれる協力製材工場も、ラミナ購入量を増加させる話をしていても価格については協力的。値段は上げたいだろうが、据え置き価格での供給が受けられている。欧州材は、今年に入ってから為替円高化しており、為替分多少ラミナが安く買える様になるかもしれない。ただし、世界的な木材需要は比較的旺盛で、欧州サプライヤーは対日向けラミナ製材以外にも仕事を選ぶことが出来るポジションのため、根本的な現地価格の大幅値下がりには期待できないのではないかと。米ヒバは、米スギ原木の高騰により発生した代替需要によりアメリカ向けに米ヒバが買われ、米スギ価格に引っ張られるように米ヒバ原木価格も暴騰した。しかし、2018年夏ごろから米スギ価格が落ち着いて来てから、アメリカ向けの米ヒバの代替需要がなくなり、米ヒバ原木価格は若干下がった。来月2月からようやくその価格が少し下がった丸太で製材したラミナが入って来て、ラミナコストが少し下がる見込み。

31年1月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

(3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		31/1月	2月	3月
生産動向	国産材	33.3	△ 16.7	0.0
	WW集成管柱	0.0	0.0	0.0
	RW集成平角	0.0	△ 50.0	0.0
	米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—
出荷動向	国産材	0.0	△ 16.7	0.0
	WW集成管柱	0.0	0.0	0.0
	RW集成平角	0.0	△ 50.0	0.0
	米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—

・構造用集成材の生産動向は、国産材は1月の増加から2月は減少、3月は横ばいに。WW集成管柱、米マツ集成平角とも3カ月連続横ばい推移。RW集成平角は1月の横ばいから2月は減少、3月は再び横ばいに。

・出荷動向は国産材、RW集成平角とも1月の横ばいから2月は減少、3月は再び横ばいに。WW集成管柱、米マツ集成平角とも3カ月連続横ばい推移。

(4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		31/1月	2月	3月
スギ集成管柱	0.0	△ 16.7	0.0	
ヒノキ集成柱	0.0	0.0	0.0	
ヒノキ集成土台	0.0	0.0	0.0	
カラマツ集成土台	0.0	0.0	0.0	
WW集成管柱	0.0	0.0	0.0	
RW集成平角	0.0	△ 50.0	0.0	
米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0	
WW集成平角	—	—	—	
米ヒバ土台角	0.0	0.0	0.0	
カラマツ集成平角	—	—	—	

- ・スギ集成管柱の価格動向は弱含み。
- ・ヒノキ集成柱、集成土台とも横ばい。
- ・カラマツ集成土台横ばい。
- ・WW集成管柱横ばい。
- ・RW集成平角弱含み。
- ・米マツ集成平角横ばい。
- ・米ヒバ土台角横ばい。

モニターからのコメント

(構造用集成材の荷動き)

- ・ビルダー物件は今年度遅れていたが、12月から2月頃にピークを迎える模様。
- ・ヒノキ構造用集成材の生産動向は、12月は生産も順調かつ受注も極めて好調であったため全力生産。1月も生産は全力生産を継続。ただし年明け以降製品の販売市況は急速に悪化。2月からは生産は無理をせず、残業体制なども解除し様子を見る。その分集成材の生産は若干減少するか。WW集成管柱は、一般的な同業他社の情報によれば、WW、RW集成材管柱は製品自体が少なく昨年中は引き合いも強く、生産も増産体制ではないかと思われる。今年に入ってからからは製品販売の市況が悪化してきたため、増産体制は解除されているのではないかと。RW集成平角は、一般的な同業他社の情報によれば、昨年中は製品市況好調であったが、完成品在庫がまだまだ多く、各メーカーは増産までには至っていないものと思われる。今年に入ってからからは製品販売市況が停滞し、為替円高化の影響もあり先安観も広がり、2月以降は生産を調整する局面があるかも知れない。米マツ集成平角は、増産、減産の話はあまり聞かれない、そもそも米マツ集成材はWWやRWと異なり、一部の高強度を求める顧客用や非住宅向けが中心、限られたマーケット故、大勢への影響は微小と考えられる。ただ、米マツラミナ原料のコストは米マツの丸太価格の値上がりでストップしたので、小康状態に落ち着いたのではないかと。米ヒバ集成土台は、1月は米ヒバ集成材を比較的使用してくれる北海道地域や北陸地域が積雪で現場が止まるため、販売が鈍っている。その分若干生産は調整された。短期的な製品の販売市況は当面停滞予測だが、製品の生産はつづき700m³/月の生産は維持する。完成品在庫は増えるのは止むを得ない。
- ・ヒノキ構造用集成材の出荷動向は、昨年中は非常に販売好調で、出荷増が続いた、しかし、年明け以降急速に需要は減少中。1月も出荷増と先月段階では見込んでいたが、ふたを開けてみると、出荷増どころか、出荷減少で着地しそう。2月、3月もヒノキ集成材の製品販売状況は見通しあまり良くない。WW集成管柱は、一般的な同業他社の情報によれば、WW、RW集成材管柱は製品自体が少なく昨年中は引き合いも強く、出荷も増えたのではないかとと思われる。今年に入ってからからは製品販売の市況が悪化してきたため、出荷も多少落ちついて来たのではないかとと思われる。RW集成平角は、一般的な同業他社の情報によれば、昨年年内迄は出荷増で推移していたと思われるが、今年に入ってから急速に製品販売の市況が停滞しており、2月頃には出荷も減少に転じるのではないかとと思われる。米マツ集成平角は、当社では生産していないが、増産、減産の話はあまり聞かれない、そもそも米松集成材はWWやRWと異なり、一部の高強度を求める顧客用や非住宅向けが中心、限られたマーケット故、大勢への影響は微小と考えられる。米ヒバ集成土台は、1月は米ヒバ集成材を比較的使用してくれる北海道地域や北陸地域が積雪で現場が止まるため、販売が鈍り出荷も減少している、おそらく出荷が戻って来るのは雪解けや大型連休が終了した5月以降頃までかかるのではないだろうか。

(構造用集成材の出荷価格動向)

・スギEW管柱横ばい。カラマツ集成土台も横ばいとなっている。

・**スギ集成管柱の出荷価格動向**は、当社生産品目ではないが、スギ集成管柱は今月中くらいはスギ集成材を全面的に採用している大手ビルダーの建て方がピークを迎えているため順調に販売できているものと思われる。ただし2月以降は年度末に向けて前述の大手ビルダーの棟数も減少する見込み。一般製品販売市況も今年に入り急速に悪化していることから、先々は弱含み傾向が顕著になるかも知れなし。**ヒノキ集成柱**は、原料価格は原木などジリジリっと値上がりしたこともあり、製品価格も値上げしたい所だが、来年以降の需要減少に備えてあまり無茶は出来ない、価格は当面維持して、それよりも値上がり傾向の他樹種材料からのシェア奪取を図る。**ヒノキ集成土台**は、原料価格は原木などジリジリっと値上がりしたこともあり、製品価格も値上げしたい所だが、来年以降の需要減少に備えてあまり無茶は出来ない、価格は当面維持して、それよりも値上がり傾向の他樹種材料からのシェア奪取を図る。**カラマツ集成土台**は、当社生産品目ではないが、同業他社の話によれば、価格云々よりも原木の確保が急速に困難になりつつあり、生産や出荷量も限定されてきていると言う話を聞く。**WW集成管柱**は、当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、WW、RW集成材管柱は国内の完成品在庫が少なく、昨年中は引き合いも強かったため、価格は強含み傾向で推移した。一方年明け以降は製品販売市況が停滞してきたため価格は横ばいで推移しているものと思われる。**RW集成平角**は、当社では生産していないが、一般同業他社の情報によれば、相場も6万円は切る状況まで下がった模様。更に年明け以降の製品販売市況の停滞、為替円高化、日欧EPUの適用による輸入完成品の関税撤廃による先安観など、値下がり誘発する条件がそろっており、弱含み基調は当面変わらないか。**米マツ集成平角**は、当社では生産していないが、増産、減産の話はあまり聞かれない、そもそも米マツ集成材はWWやRWと異なり、一部の高強度を求める顧客用や非住宅向けが中心、限られたマーケット故、大勢への影響は微小と考えられる。ただ、米マツラミナ原料のコストは米マツの丸太価格の値上がりがストップしたので、製品への価格転嫁の話も今は落ち着いたのではないかと。米ヒバ**集成土台**は、2017年大幅な値上げを敢行。現在の価格に到達したのが2018年1月。それから1年間時間が経った。目先の状況は製品販売思わしくなく、他の米材の現地価格も下がってきているため、値下げの要望も受けるが価格は下げない。製品販売が鈍っても現行の価格は維持する。